

問 中畑解消農道の整備は

答 農業委員会等と連携して行う



豊創会 村上 孝 議員

問 村道から寸断されている農地を生かす中畑解消農道整備事業を積極的に活用すべき。優良農地にしようとしている豊岡雑兵地区があるが。

答 良好な営農条件確保のため、農業委員会等と連携して本事業の活用を推進する。

問 農地中間管理事業の取り組みは積極的に活用推進を図る

問 農地を集積、集約しても耕作する人がいなければ意味がない。
答 認定農業者の中核となる新規就農者、農業後継者、定年退職後の就農者等の多様な担い手確保と育成に優遇措置を周知するとともに、県等が開催する就農相談会へ積極的に参加し確保に努める。



中畑解消を望む（豊岡雑兵地区）

問 常陸那珂港北線について道路懇話会を設置して意見交換を

問 県は今年度当初予算に調査費300万円を計上している。

答 開催された懇話会では、有識者や事業者8人の委員と3県の行政担当者が加わり、高規格な道路のあり方等検討を開始した。県に意見をjする予定。

問 村内異業種間連携と人材登録制度

答 企業連携や産業化の取組を進める



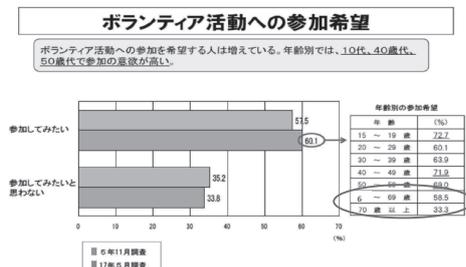
新政とうかい 武部 慎一 議員

問 東海村の次の世代に繋ぐ人材育成システム、異業種間での技術連携や販路拡大への支援が必要。生涯学習ボランティアバンク制度は様々な知識、技能などを地域社会に役立ててこそその制度である。

人材交流が期待される場の創出、単に人材登録だけではなく、実践で他分野との連携等が可能で新たな場の創出が急務の課題ではないか。しかし、東海村の多様な人材の高齢化が進み、次世代の人材育成が必要ではないか。

答 原子力人材育成・確保協議会には高校、高専、専門学校、大学等16校が参加。他産業との連携では、村と

「生涯学習人材育成支援等に関する調査情報」について内閣府「生涯学習に関する世論調査」（平成5年/平成17年）データ比較が示されている。ボランティア活動参加希望は、60代で約60%、70代で約30%を示す。高齢者の意欲を有効に活用すべきでは。



して初めて合同就職面接会を参加企業26団体で開催。83名の求職者が来場し、就職決定者は9名。村には原子力で培った高い技術を持つ企業がある。その協力で村の課題解決ができれば大変ありがたい。様々な業種の村内企業の顔合わせができる場の提供を図り、村内の原子力企業や異業種の企業等による連携や産業化が進む取組みも進めていきたい。

資料:内閣府「生涯学習に関する世論調査」(平成5年/平成17年)より